

金銭教育に役立つ絵本一覧

名古屋市消費生活センターくらしの情報プラザでは、お金の使い方を親子で考えることができる絵本をご用意しています。お金の話をするきっかけに、絵本を活用してみませんか。貸出しもできますのでご自宅でお子様とごゆっくりお読みください。また、金銭教育を始めてみようという保護者の方に参考にしていただける本もあります。ぜひ一度、名古屋市消費生活センターくらしの情報プラザにお越しください。



書名	著者等	内容
ハッピーとかんがえよう！ おかねのこと	名古屋市消費生活センター：発行	お使いやおこづかいを通して、「お金はどこから来るのか」、「お金をうまくやりくりする方法」などを、親子で一緒に考えることができる一冊です。
ハッピーとかんがえよう！ みえないおかね	名古屋市消費生活センター：発行	電子マネーについてのおはなしを通して、「『見えないお金』も限りあるお金であること」などを、親子で一緒に考えることができる一冊です。
お金としょうずにつきあう 本	L. ジャフェ, L. サン=マルク： 作 永田 千奈：訳	3つのテーマについてそれぞれ「おはなし」「しらべてみよう」「やってみよう」の3ステップで解説。イラストも多用されていて絵本感覚で読むことができます。最初のテーマは「ほしい」と「必要」。ピンク色のリュックサックとインラインスケート、その両方を絶対に「必要」だと主張するサラのエピソードを通じて、「ほしい」と「必要」の違いを親子で考えてみましょう。
かあさんのいす	ベラ・B.ウィリアムズ：作・絵 佐野 洋子：訳	火事で全てを失ってしまいましたが、周囲に支えられながら力を合わせて生きて行くおばあちゃん、おかあさん、わたし。みんなで座ることができる大きないすを買うために、それぞれができることをします。目標を持ってお金をためることや、価値のあるお金の使い方が前向きに生きる家族の姿から自然に伝わってきます。
ペレのあたらしいふく	エルサ・ベスコフ：作・絵 おのでら ゆりこ：訳	すっかり短くなったペレの上着。あたらしい上着を手に入れるためにペレのしたことは……。人々との労働の交換によって欲しい物を得るペレ。また、現代では体験することが難しい、さまざまな人の手を経て物ができあがる仕組みがペレの服作りを通じて描かれています。

(2021年5月19日現在)

書名	著者等	内容
ねぼすけスーザのおかいもの	広野 多珂子：作	だいすきなマリアおばさんにプレゼントをあげたい！スーザは働いて貯めたおかねを持って丘を五つも越えた街に買い物に出かけます。ぴったりのプレゼントは見つかったのですが…。高価なものではなくとも、知恵を絞って工夫することですてきな贈り物になることを、小さなスーザの奮闘ぶりとともに楽しく学べます。
初めてのおつかい	筒井 頼子：作 林 明子：絵	お母さんにたのまれて、初めておつかいに行ったみいちゃん。いろいろな困難を乗り越えて、なんとか無事に頼まれたものを買うことができました。一人で買物をするドキドキをお子さんと一緒に感じましょう。
買物絵本	五味 太郎：作・絵	お金で買えるものと買えないものについて考えることで、くらしや経済を見つめ直すことができる考察絵本。金銭感覚を養う一助となる一冊です。